

## 横浜市会議員



# 月刊・伊藤ひろたかの 1分でわかる市政レポート

伊藤ひろたか事務所 〒226-0003 緑区鴨居3-3-2 川端ビル1F ホームページ: <http://hiro-chan.net>  
TEL & FAX 935-7850 e-mail: [voice@hiro-chan.net](mailto:voice@hiro-chan.net)(PC) [hero1001@ezweb.ne.jp](mailto:hero1001@ezweb.ne.jp)(携帯)

## 世界のGDPランキングと人口規模に見る横浜の未来

前号では、政令指定都市制度は昭和31年から続く暫定措置であること、その結果、制度にさまざまな歪みが生じていることを報告しました。本号では、都市としての成長に焦点を当て、世界の潮流と比較したいと思います。横浜市にも子育て、福祉、医療と様々な政治課題があります。どれも詰まるところ、税金が上がらないと解決できない問題です。ない袖は振れないのです。税金を挙げるには、横浜を都市として成長させること。そのための都市制度の見直しです。都市制度は分かりにくい話ですが、大切なテーマですので、お付き合い下さい。

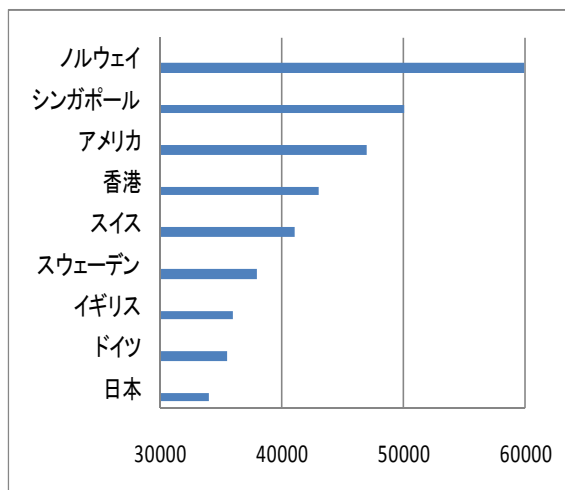
**前** 回のレポートを読んだ方から素朴な疑問が寄せられました。「政令指定都市制度を見直すと、市民生活はどう変わるの？」。

**こ** れは大変、答えにくい質問です。目に見えて現れる変化はそれほど多くないでしょう。分かりやすいところでいえば、パスポートの発行が区役所で可能になる、といったところでしょうか。

**市** 民生活に大きな変化はないかもしれませんが、横浜という都市をどう成長させていくか、という観点から非常に重要なテーマなのです。いよいよ人口減少が始まり、高齢化が始まっている中で、医療や福祉、教育の予算をどう確保していくのか。県との二重行政の解決、貧弱な法人市民税をどう

解消していくか。その答えが都市制度の見直しにあります。

**世** 界の流れはどうなっているのでしょうか。大変、興味深いデータがあります。モノやサービスをどれくらい購入できるかを表す指標に『購買力平価』という指標があります。各国のGDPをドル建てに換算した上で、国民一人当たりの購買力平価でGDPを比較すると次のようになります。



略歴  
1977年生 32歳  
2002年 早稲田大学大学院  
理工学研究科修了  
2002年 日経BP社入社  
主に知的財産、環境、ITなどを  
記者として取材

2007年 横浜市議会選挙  
2008年 マニフェスト大賞  
最優秀アイデア賞  
受賞

2009年 マニフェスト大賞  
最優秀成果賞  
ノミネート

無所属クラブ 副団長  
こども青少年・教育委員会  
委員  
大都市行財政度特別委員会  
委員

このグラフ自体はどこかで見たことがあるかもしれませんが、日本は既に経済一流国ではないのは一目瞭然です。さて、ここからが面白いのです。人口に注目してみると…。

ノルウェー	478万人
シンガポール	484万人
アメリカ	3億400万人
香港	698万人
スイス	765万人

軒並み、人口規模は500万人～800万人の都市・国家なのです。アメリカは突出していますが、州ごとに立法権、徴税権がありますから、実態は500万規模の都市国家の集合体と言えます。

**世**界を見渡すと、恐らく500万人規模の行政単位で物事を進めるのが、最も活力を引き出せるのだらうと思います。世界の流れを見ても、横浜の人口368万人という規模はちょうどいいのです。しかし、そのためには前号で触れたように

制約の多い、暫定措置である政令指定都市制度を見直す必要があります。

**私**は、これからの日本が繁栄するためには地方分権は必須の条件だと考えています。日本全国が一律に変わるのには難しいかもしれませんが、少なくとも、横浜市はモデル・ケースになり得るだけの経済規模、人口規模、市民力を擁しています。地方自治法に始まり、多岐にわたる法改正が必要になるため、ハードルは高い。しかし、引き続き、市会議員としての1つのライフワークとして取り組んでいきます。



### 6月議会の一般質問にて 「はまっ子どうし」は見直すべきでは？

**質問1** 横浜市のボトルウォーター「はまっ子どうし」の事業目的は、水道事業の理解を深めることとなっている。事業目的の達成の手段として、ボトルウォーターは適切な方法と言えるのか？

**質問2** 「はまっ子どうし」は赤字で続けている事業である以上、事業目的の達成を図る指標が必要であり、目的を達成した時には速やかに事業を終えるべきと考えるが、市長はどう考えるか？

## ロゴに込めた思い～原点を大切にしたい



鳥のくちばしをモチーフにデザインしました。そこに込めた思いは「ベンチャー精神を忘れない」。十八史略の鶏口牛後に由来します。大きな組織に従属するよりも、小さな組織のトップでいる方が良いという意味です。最初は小さな組織でも成長し、大きくなると、どうしても守りに入ってしまう。大胆なことができなくなります。しかし、それが社会の次なる成長の阻害要因になります。

私は「ジバン」「カンバン」「カバン」の何もない、正に徒手空拳で2007年の選挙に挑みました。政治家にとって原点は重要です。今、政治が混沌とする中であっても、決して原点を忘れず、組織が大きくなったとしても、ベンチャー精神を忘れずに、これからも活動を展開していきたい。そんな思いを込めました。